

〈あそび〉で元気 子どもの〈元気〉が明日への力

3月11日の東日本大震災によって、たくさんの人が避難生活をおくらなければならなくなったり、多くの工場が被災してものが作れなくなったり、節電のために営業時間を短縮しなければならなくなったり、社会全体が〈元気〉を失いかけています。こんなときにこそ、子どもたちの〈元気〉が社会全体のエネルギーとなって、明日への力へとつながるのではないのでしょうか。

子どもたちの〈元気〉のもとには〈あそび〉。夢中で遊ぶことで、気持ちをリフレッシュ。元気をとりもどすこともあります。大きな声をだして遊ぶだけで、気分がすっきりすることもありますが、特別な場所でもなくても、仲間さえいればいるな〈あそび〉ができれば、〈元気〉に遊ぶことが、つぎの〈元気〉を生み出して、周りの大人も〈元気〉になります。

子どもたちの豊かな表情が、みんなの〈元気〉に

千年に一度といわれる大災害——直接被災された人々はもとより、多くの人の心にもなにかしらの“不安”をもたらしました。大人の“不安”“きんちょう”“落ち着きのなさ”などは、自然に子どもたちに伝わり、子どもたちの〈元気〉もしぼんでいきます。

子どもたちが〈元気〉になって、その〈元気〉を大人がもろうためには、子どもたちの〈元気〉をとりもどすことが大切です。そこには、大人の方が力が必要です。子どもたちの〈元気〉を引き出すのです。

空想の世界で遊んだり、人とふれあったり、自分の力を試したり、自分の好きなことをしたり——〈あそび〉のなかから〈元気〉が生まれてきます。楽しそうな笑顔、夢中になって口をとんがらせている顔、なにかをなして嬉しそうなお顔、くやしそうな顔——子どもたちの豊かな表情が、みんなの〈元気〉につながります。

手や指を使った〈あそび〉もたくさんあります

〈あそび〉は、仲間さえいれば、いつでもどこでもできます。小学校高学年ぐらいの子どもたちは、ちょっとした時間を利用して「ゆびスマ」をしています。ゲームにした両手を前に出して、合図にあわせて立てた親

指の数(合計)をあてるゲームです。あたったら手をひっこめます。はやく両手をひっこめられた人が勝ちです。「いっせーの、せ」とか、「ちゅちゅ」とか、いろいろな呼び方があります。合図が遊びの名前になっているようです。

手や指を使った遊びはたくさんあります。お父さんお母さんの世代、おじいちゃんおばあちゃんの世代では、ちがう遊び方をしていたかもしれません。名前はちがっても、同じ遊びだったということもあるかもしれません。世代間で情報を交換するとおもしろいかもしれません。

私鉄沿線のふみ切りが近くにある公園で、子どもたちがしていた鬼ごっこは、ふみ切りの警報音がなるたびに、事前に決めた順番で鬼がこたいたいするというものでした。チンチンチンという、ふみ切りの音を遊びに生かしたのです。

えは、さらにバラエティにとんだ〈あそび〉が楽しめます。“おもしろそう”という気持ちを大切に、知恵と工夫はたからせるのです。

子どもたちがリフレッシュして〈元気〉をとりもどすためには、大人が〈あそび〉をとおして仲間とふれあい、人と人とのつながりを確かめることもできます。

東日本大震災に被災されたみなさまに、心からお見舞い申し上げます。
〔こどもの城〕では、子どものケア支援活動、救援物資の協力、チャリティコンサート開催などを行っています(2面参照)。これからも、さまざまな形で支援活動を行ってまいります。



こいのぼりがいっぱい！ みんなでゲンキに！ 4月17日ピロティ

5月5日から始まる「児童福祉週間」をひかえて、こいのぼりをあげる集い「こいのぼりがいっぱい～みんなでゲンキに！」が、4月17日に〔こどもの城〕ピロティで行われました。実施主体は、厚生労働省、朝日子ども未来財団、〔こどもの城〕。協力は、日本鯉のぼり協会、朝日児童健全育成推進財団、全国地域活動連絡協議会、みらい子育てネット東京。

集いには、厚生労働省の小宮山副大臣、横綱・白鵬関が出席。招待された、都内で

避難生活を送っている子どもたちとご家族約50人と一しょに、5ひきの大きなこいのぼりをあげました。「こいのぼりがいっぱい」の完成です。先頭の吹き流しには、〔こどもの城〕に来館したみなさんから、東日本大震災で被害にあわれたみなさんへの応援メッセージが書き込まれています。100ひきになったこいのぼりは、みんなの〈元気〉をもらって、被災者のみなさんが一日でも早く元気になれるようにと、5月29日まであがっています。

おじいちゃん、おばあちゃん世代に〈あそび〉教わる

ゲーム機などの遊びの道具が少なかったころは、どうやって遊んでいたのでしょうか。おじいちゃんおばあちゃん世代の人に聞くと、「せせせせ」「ちゃちゃつぽちゃつぽ」「はないちもんめ」「かごめかごめ」などの遊びを覚えてもらえるかもしれません。室内で遊べるものもあれば、外で遊ぶものもあります。

共通するのは、歌を歌いながら遊ぶということ、特別な遊びの道具を使わないこと。〈あそび〉と歌(音楽)が結びついていました。今の音楽にくらべると、ゆったりとしています。歩いていたりする体の動きに合ったテンポです。

ボールがあれば、いろいろなまり歌も覚えてもらえると思います。「あんたがたどこさ」は、「さ」のところをゴムまりをまがります。「さ」が何回も出てくるこの歌は、いろいろと応用できます。

ウーンと背のびするだけでもすっきりした気分

ウーン、と背のびをすすとすっきりした気分になります。「こどもの城ニュース」(2011年1月1日号：第225号)で紹介したように、たがいの手首をにぎりあってひっぱりっこをする「人間つなぎ」や、うつぶせに寝ている相手をひっくりかえす「かめおこし」など、いろいろなお遊びがあります。

うつぶせに寝ている人の上を、ローラーのようにまっすぐに体をのぼして、足先から頭の上まででこがっていく遊びもあります。でこぼこした体の上をまっすぐ転が



っていくのは、かんたんなようで意外に難しいようです。うまく転がってもらえると、寝ている人はマッサージされた気分になります。

道具を使わないで、みんなで楽しめる遊びに「人間ちえの輪」があります。両手をつないだまま、つないだ手の下をくぐったり、またいだりして内側に向いている輪が外側向きの輪になる遊びです。こんがらがった形をほどこいてもらう、同じ形になってもうなどアレンジすることもできます。

両手をつなくと、こんな遊びもできます。両手をつないで並び、つないだ自分の右手を右足でまたいで、またの下で後ろの人とつながります。そのまま歩いてもおもしろいし、最後尾の人から順に手をつないだまま前の人のまたをくぐって、もとの両手をつないだ形にもどる遊び方もあります。全員の協力が必要。全身を使う運動になります。

大人が〈あそび〉のきっかけを

子どもたちが〈元気〉にする〈あそび〉は、いつでもどこでも作り出すことができます。新聞紙、タオル、ロープなど、身近にあるものを使

